

国宝 松江城天守

松江城は平山城で、天守がある本丸の周辺に二之丸、二之丸ノ下段、後曲輪がめぐり、南には堀を挟んで三之丸がある。

城全体の構えは東側を正面とするが、天守自体は南向きとなっている。天守は、彦根城・犬山城と同じように附櫓を設けた複合式望楼型で、一、二重目は大入母屋屋根で全面下見板張り、望楼部と附櫓も一部白漆喰であるが窓廻りの木部は全て黒塗りで、黒を基調とした天守である。

全国に現存する12天守の一つで、天守の平面規模では2番目、高さでは3番目、古さでは5番目である(国宝・重要文化財建造物目録/文化庁編)。昭和10年に国宝に指定され、昭和25年には文化財保護法の制定により重要文化財と改称されたが、平成27年7月8日、国宝に再指定された。

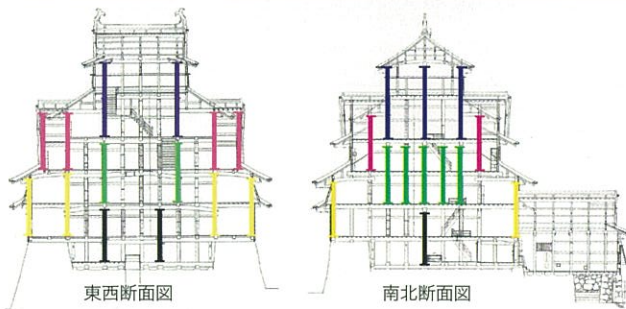
明治の初め、全国の城はほとんど取り壊されたが、松江城天守は地元の豪農 勝部本右衛門、旧松江藩士 高城権八ら有志の奔走によって山陰で唯一保存され、松江のシンボルとして親しまれている。

松江城データ

築城年	慶長16年(1611年)	築城主	堀尾 忠晴
構造	複合式望楼型 四重五階天守、地下一階付		
1階床面積	447.23㎡		
高さ	約30m(天守高22.43m+石垣高平均値7.57m)		

松江城天守の構造上の特色

2階分を貫く通し柱を効果的に配置するとともに、上層の重さを分散させながら下層に伝える構造となっている。長大な柱を用いることなく、上層になるほど平面が縮小する天守という独特な構造の建築を可能にしたものである。



(西和夫氏作製:色付けされた柱が各2階分を貫く通し柱)

ついでに、 国宝附指定 3件

きとうふだ 祈禱札 2枚

平成24年5月に発見された2枚の祈禱札からは、「慶長拾六年正月吉祥日」などの文字が確認され、慶長16年(1611)とされていた松江城の築城時期が、慶長16年正月以前であることが確実となった。2枚の祈禱札は、地階の2本の通し柱に打ち付けられていたことが、調査の結果明らかとなった。松江城天守は、築城当時の史料によって完成時期を確認できる数少ない現存天守のひとつである。(松江歴史館に収蔵)

慶長拾六年 辛亥 大山寺 敬
梵 奉轉讀大般若經六百部 武運長久延
正月吉祥日 白

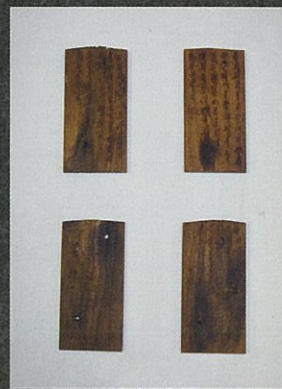
慶長十六曆
梵 奉讀誦如意珠經長栄処
正月吉祥日 言



ちんたくき とうふだ 鎮宅祈禱札 4枚

*右上・下「不動鎮宅真言」
*左上「加護所住処 真言」
*左下「八字文殊真言」

昭和の解体修理工事(昭和25~30年)で天守内の柱や梁から発見された4枚の鎮宅祈禱札で、梵字の願文が記されている。打ち付けられていた方位等とあわせ、真言密教の鎮宅の修法を極めて厳密に行なったことを示すもので、他の2件とともに、築城に際し三態、三様の祈禱が行なわれたことを示す貴重な資料である。(松江歴史館に収蔵)



しずめもの 鎮物 3点

*左「槍」 *右上「祈禱札」 *右下「玉石」

昭和の解体修理工事(昭和25~30年)の際に天守地階の南西隅(裏鬼門)の大根太受け礎石の下から発見された鎮物一式である。築城に際しての地祭りの鎮物で、発見された祈禱関係の資料の中で最も初期のものであり、他の2件とともに、築城に際し三態、三様の祈禱が行なわれていたことを示す貴重な資料である。(松江歴史館に収蔵)



とみ 「富」の文字が入った分銅紋の刻印のある部材

昭和の解体修理工事(昭和25~30年)で取り外され、天守地階に保存してある部材の木口に、松江藩初代藩主堀尾家の家紋・分銅紋に「富」の文字が入った刻印があることが確認された。松江城築城には、広瀬の月山富田城の部材の一部転用したとの伝承があることから、この刻印はそれを裏付ける貴重な資料のひとつと考えられている。(地階に展示中)



地階と祈禱札の打ち付け場所

模擬札を使って打ち付け位置を再現した様子。(丸で囲われた部分)
地階は籠城用生活物資の貯蔵倉庫であり、穴蔵の間と呼ばれ、塩などが備蓄されていた。
中央には深さ約24mの井戸があり、常時飲料水が得られた。



石落とし・狭間

天守に近づくと敵に石を落して攻撃するための石落としや、鉄砲で攻撃するための鉄砲狭間がある。いずれも外部からは発見しにくい構造になっている。



包板(つつみいた)



天守を支える柱には、一面だけ、あるいは二面、三面、四面に板を張って、鏝や鉄輪で留められているものがある。これは「包板(つつみいた)」と呼ばれ、天守にある総数308本の柱のうち130本に施してあったもので、割れ隠しなど不良材の体裁を整えるためのものと考えられている。

附櫓(つけやぐら)

天守入口の防備をかたくするためにとり付けた櫓で、入口に鉄延板張りの大戸があり、入ると櫓形の小広場が二段あって、侵入しにくいようになっている。



櫓3棟復元

かつて二之丸には、御門・東の櫓・太鼓櫓・中櫓・南櫓・御月見櫓があった。このうち、太鼓を打って時刻を知らせる太鼓櫓と御具足蔵と呼ばれた中櫓、南東方向を監視するための2階建ての南櫓の3棟の櫓は、平成13年に約125年ぶり(明治8年取壊し)に復元された。

